

高知山～二王子岳山行記録



| | | | |
|-----|--|-----|-------------------|
| 目的地 | 高知山～二王子岳 | 期 日 | 平成20年3月23日(日):終日晴 |
| 山行人 | 本間 T・高橋 K・目黒 N・笠原正雄・伴場 C・加藤 I・隆 (年齢順/男3女4名/平均年齢≒60才) | | |

| 地点名 | 時刻 | 記 事 |
|---------------------------|-------------|---|
| 与 板 | 3:20 発 | 三条 IC 入口で、まことさんに送って貰った K と C を乗せ新発田集合場所へ |
| 南俣林道ゲート | 6:00 歩発 | 2週間前より随分と雪が減りここまで入れた。歩き出しは幾分寒く感じる。壺足。 |
| 林 道 途 中 | 6:30 | 雪は固くて壺足のまま進む。本間さんが先頭でぐいぐいと皆を引っ張ってくれた。着込んでスタートした者が一枚脱ぐ。 |
| 山 ノ 神 | 7:10 | 先回雪の下だった石の祠が露出していた。 |
| 尾 根 取 付 き | 7:25 | 右の杉林から上がる。先回と同じ場所。以前はもう少し手前から上がったようだ。 |
| シャツを脱ぐ | 7:50～8:05 | 急登は雪が少なくなって登り易くなっていた。開けた小広場に出て休む。日差しを受けアンダーシャツとベストになる。日焼止めを塗る。三王子ピークが見える。 |
| 標 高 点 6 7 5 | 8:20 | 林が切れ、右の展望が開け五頭山がくっきり見える。態勢を整える。 |
| 金 時 岩 | 9:00 | 林間に玉子形の背丈を越す石。5分ほど立止まり歩き出す。 |
| 再 会 | 10:25 | 鳥居峠過ぎの小ピークで先週日白山で出合った茨城県からのテントミータカさん2人とスライドする。山頂幕営泊と言う。ミーさん曰く「いやでもまた会うよ」。 |
| 標 高 点 1 2 1 7 | 11:10～12:10 | こんもりとしたピークでランチタイム。薄雲で強い日差しは無いが丁度良い気温である。黄砂で雪が少し汚れている。日射の具合で五頭、川内方面の山が一段とくっきり見える。準備に手間取り遅れてスノーシューで歩き出す。皆は壺足だ。 |
| 三王子の登り | 12:40 | アップダウンののち、最後の急登へ入る。兼用靴の隆が遅れる。 |
| 三 王 子 | 1:05 | 急登を終え、風かやや強くなりシャツを着る。5分後神社コースと合流する。絶景だ。佐渡の山、粟島も判る。先回より朝日連峰が良く見えた。遅れた隆がなかなか来ない。目印を置いてザックをデポし、山頂へ。神社への下山者とスライド。 |
| 二 王 子 岳 | 1:40～2:00 | 飯豊連峰が全部見える。先回穴まで塞がっていた青春の鐘の門は雪が落ちていた。単独山スキー男性から数台のカメラで写真を撮って貰う。もう1人山スキーのやたら歯の白さが目立つ立派な雪焼け男がやって来た。小屋裏にミータカさんのものと思われる幕営跡があった。 |
| 三王子へ戻る | 2:15 | ここは風の通り道か、山頂で感じなかった風があった。遅れて上がって来た隆と合流して下山する。隆はショートスキーだ。この先途中でスノーシューを履く。 |
| 油 コ ボ シ | 2:25 | 雪が腐っていてシリセードもあまり速度がつかない。 |
| 定 高 山 | 3:00～3:05 | 9日は積雪柱4.8mだったものがこのところの暖かさで一気に3.4mまで減っていた。皆はぬかる雪に備えて本日初めてカンジキを履く。俺はスノーシューを脱ぎ、最後尾を壺足で下る。やはり時々ぬかって転ぶ。 |
| 隆の道迷い 尾根右折下降点 から登返し | 4:00 前後 | 一王子手前で林間に入るが、6人は雪道コースで尾根下り、ショートスキーの隆は一王子経由のコースを取ることにした。隆はコースを承知しているものと思ったのだが降りて来ない。携帯電話が通じ一王子に戻るよう連絡する。右折点から空荷で一王子に上り返し合流する。お互い姿を確認しながら下山すべきであった。 |
| 二 王 子 神 社 | 4:55～5:05 | ここでも林間滑りで隆が遅れて到着。 |
| 南 俣 集 落 | 5:50 | ショートカットの杉林は雪が無くなっていた。姫田川の流れが勢いを増し音が大きく聞える。集落が近づけば無雪道となる。 |
| 南俣林道ゲート | 5:56 | 皆で車道を歩く。もっと時間が掛かるかと思っただ、Tの言う通り短時間で着く。 |
| 帰 宅 | 8:15 着 | 五十公野公園で T、N、I と別れる。三条 IC 出口で出迎えに出て下さったまことさんに K と、燕三条駅から埼玉へ帰る C とに別れを告げ帰宅する。 |

2週間前、HZUさん達と5人で同じコースを歩いた。4人は山スキーで1人スノーシューでの参加である。皆に遅れを取るかと思っただ、ECBが靴の不調で途中から遅れ出し、その憂いは無くなった。また、その日も絶好天で、遊び過ぎて、最終盤は頭灯歩行となり、何と山中13時間半であった。

埼玉からCが越後の山遠征にやって来た。魚沼の山も候補に考えたが、飯豊大好きな彼女ならこのコースはきっと喜んでもらえると思い、皆に提案し、新発田のTさんとNさんに連れて行って貰うことにした。雪質が変り、黄砂の影響もあったが、大展望は素晴らしい。先回に引き続き好天に恵まれ、今期2度も本コースを楽しんだ。